

## 問に答ふ

注 水彩画に關係あるものは限るの印は答。一般に對して利益なきものは載せず。

『みづゑ』第六赤城の秋のうち華秋、默念、汀鶯氏は誰方に候哉又外國の鉛筆畫の手法は何程に候哉ニユートルチント及セピア畫のもの有之候哉(淺草MS生)◎華秋は小林福太郎氏、默念は眞野紀太郎氏、汀鶯は大下氏に候。次に外國製鉛筆手本は佛人カツサン氏のもの尤もよく價は二十圓程ときく、他に數種あり丸善書店に問合されたし一色畫の臨本もあり要塞地寫生の免許を受けるには如何にすべきや(芝愛讀者)◎願書雛形は紙面の都合にて掲載すべし、併し中々許可ならぬものと覺悟せられたし

1 『みづゑ』第一はいつ發行になりますか日本畫の繪具にて水彩を畫き得るや、日本畫の繪具は變色せぬといふ如何なるものや3寫生の時人の集まらぬ方法なきや4沼地などにて三脚の脚の深く入り込まぬ法ありや5瀛車自轉車の急寫法ありや6岡田三郎、山田汀、工藤太郎三氏の宿所を知りたし(栃木眞岡中學若山隆)◎1口繪の石版畫なき故多數の申込にあらざれば三版發行出來ず2差支なし、但變色する繪具ありと大きく外に良法なし人3が集まつても氣にならぬ程寫生に熱中するのは積極的のやり方

なり4外に方法を知らず近處にある材料で工風したまへ5平素動かぬ時よく見て置き其形を心得て置たらいかに早きものにてても其感を現はし得べし6東京牛込區大久保余丁町十八岡田三郎、全日本橋區堀江町三ノ四山田佐吉、青森縣三戸町在府小路町工藤太郎 溶解ラックは墨繪の上にその儘で塗りてよろしきや、霧吹を用ふる時は長短何れを如何致してよろしきや(藏前五生)◎必ず霧吹を用ゐられたし、霧吹はなるべく細かく霧の出るものなら何にてもよろし、少し離れて吹かぬと畫面を損すべし

1 ワットマンの表裏は文字の順によるにや2 マットとは何のことか3 臨時増刊はいつ出るにや(陸前K、Y生)◎1文字の順にてよし、但何れの面へ描いても別に相違を見ず

2 マットとは畫と額縁との間に入る、紙若くは薄板の間に其紙を畫面丈切抜たるものなり3未定 『みづゑ』第十九の秋の夜の設色を説明されたし(米澤五生)◎地の色は薄きネブルスエロー圓の中の地は薄鼠葉は濃きオリーヴ薄の穂はエローオークル月は白琴柱は黒なり

1 肉筆臨本はドノ位ひの大きにや2 繪畫の寄稿には寄稿と明記すべきや又返送を望む時は直ちに返さるゝや(南海の「會員」)◎1凡そハカキ二枚大なれど一定せず2 明記されたし佳作と認めしものは寫真にとる爲め返送延引すべし

## 讀者の領分

注 長文及水彩畫に無關係のものは御願り。◎印は編者の答。投書の際の要點のみを掲ぐ

金拾圓程の寫真器をスケッチ箱(九ツ切)に金四圓程つけて交換して呉れませんか、寫真器には三脚、取枠、藥品等附屬品を皆つけて差上ます、箱と金と着次第寫真器を送ります(芝三田四丁目七、金子保)

僕は初學者ぢやないと云ふたら生意氣な事を吐すなといふだろーが、全く初學でも何でもない、或る本に日本でも有名な大家が「吾々初學者が」と云ふてゐるコゝ云はれど我々は實際居所がなくなるではないか(陸前K、Y生)

忠實なる水彩畫鉛筆畫スケッチ交換を望む、但紙幅は相互ワットマン十六切を用ひボール紙を重り袋入として送付すること(秋田縣河邊郡和田小學校内高橋松治)

諸君毎度ですが自筆水彩繪葉書を交換して下さい、僕には大そう有益であつた、但畫面に字なきを望む(播磨國明石郡垂水村多聞村柝木春翠)

此次の臨時増刊には白紙にして定價を高くし、石版も立派にし、諸先生のお話かなにかを所々に入れて貰いたい(陸前K、Y生)

『みづゑ』の表紙は今迄一度も感心しませんが要するにアマリにクラシックです美術雜誌の表紙としては醜の極と考へます